

(20) にんじん

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 黒葉枯病 <i>Alternaria dauci</i>	1. 連作を避ける。 2. 低湿地での作付けを避け、圃場の排水を良好にする。 3. 肥切れしないように、肥培管理を徹底する。 4. 収穫後は茎葉を集めて処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●種子消毒（吹付処理） 1. ダコニール1000の吹き付け処理は、種子消毒機を使用する。 ●発病初期 1. 本病対象にストロビーフロアブルで防除を実施しているところでは、うどんこ病の発生が少ない。 2. 本病対象に銅水和剤（コサイド3000、Zボルドー）で防除を実施しているところでは、疫病、斑点細菌病、軟腐病の発生が少ない。 3. 本病対象にポリオキシシンAL水和剤、ポリベリン水和剤で防除を実施しているところでは、菌核病の発生が少ない。	播 種 前 （種子粉衣）	2 M7	ロブラール水和剤 ベルコート水和剤
		播 種 前 （吹付処理）	M5	ダコニール1000
		発 病 初 期	2 7 11 11 19 M1 M1 M1 M1 M1 M3 M5 M7 M7 P7 11・7 11・M5 M7・19 24・M1 24・M1	ロブラール水和剤 アフエットフロアブル ストロビーフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ポリオキシシンAL水和剤 コサイド3000 Zボルドー ICボルドー66D キノンドーフロアブル クミガードS ペンコゼブ水和剤 ダコニール1000 ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル アリエッティ水和剤 （混）シグナムWDG （混）アミスターオブティフロアブル （混）ポリベリン水和剤 （混）カスミンボルドー （混）銅パーシン水和剤
2 うどんこ病 <i>Erysiphe heraclei</i>	1. 多肥栽培は控え、間引きを早めに行う。 2. 被害茎葉は集めて圃場外で処分する。 3. 圃場周辺のセリ科雑草を処分する。	発 病 初 期	3 7 11 M1 M7 11・M5	トリフミン水和剤 アフエットフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ヨネポン水和剤 ベルコートフロアブル （混）アミスターオブティフロアブル
3 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i>	1. 連作を避け、4～5年間イネ科作物を栽培する。 2. 排水を良好にする。 3. 被害株は早期に除去する。 4. 管理作業で根や茎葉を傷つけないよう注意する。	発 病 初 期	31 24・M1 24・M1	スターナ水和剤 （混）カスミンボルドー （混）銅パーシン水和剤
4 根腐病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 罹病植物残さは圃場外に持ち出し、処分する。 2. 連作を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	- -	ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
		播 種 前	4・11 14	ユニフォーム粒剤 リゾレックス粉剤
5 しみ腐病 <i>Pythium sulcatum</i>	1. 連作を避ける。 2. 圃場の排水を良好にする。 3. 罹病植物残さは圃場外に持ち出し、処分する。 4. 発育適温が28℃付近にあるので、春夏に発生が多い。 5. 収穫適期を過ぎると発病を助長するので、収穫は適期に行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	- - - - - - -	クロールピクリン キルパ バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤 （混）ソイリオン （混）ダブルストッパー
		播 種 前	4・11	ユニフォーム粒剤
		発 病 初 期	11・M5	（混）アミスターオブティフロアブル
6 菌核病 <i>Sclerotinia intermedia</i> <i>S. sclerotiorum</i>	1. 発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って圃場外で処分する。 2. 連作を避ける。	発 病 前 か ら	11 7 M7	ファンタジスタ顆粒水和剤 アフエットフロアブル ベルコートフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

にんじん

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
7 斑点病 <i>Cercospora carotae</i>	1. 本病は、7～9月に多発するので、梅雨明け前から薬剤散布を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 黒葉枯病の防除を行っている圃場では、本病の発生は少ない。	発 生 初 期	2 7 7 11 11 M1 M7	ロ ブ ラ ー ル 水 和 剤 ア フ ェ ッ ト フ ロ ア ブ ル カ ナ メ フ ロ ア ブ ル フ ェ ン タ ジ ス タ 顆 粒 水 和 剤 ス ト ロ ビ ー フ ロ ア ブ ル ヨ ネ ポ ン 水 和 剤 ベ ル ク ー ト フ ロ ア ブ ル
8 アブラムシ類 (モザイク病 C eMV CMV)	1. 病株は早期に処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アドマイヤー顆粒水和剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤で防除を実施している圃場では、ヒメフタテンヨコバイの発生が少ない。	発 生 初 期	1A 1B 4A 4A 4A	ラ ン ネ ー ト 4 5 D F マ ラ ソ ン 乳 剤 ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤
9 ネキリムシ類	1. 発生密度が低いときは、被害株の近くの土を掘って幼虫を捕殺する。	生 育 初 期	1B 3A 22B	ネ キ リ エ ー ス K ガ ー ド ベ イ ト A ア ク セ ル ベ イ ト
10 ヨトウムシ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若 齢 幼 虫 期	1A 13 18	ラ ン ネ ー ト 4 5 D F コ テ ッ フ ロ ア ブ ル ロ ム ダ ン フ ロ ア ブ ル
11 キアゲハ	1. 幼虫は見つけしだい捕殺する。	若 齢 幼 虫 期 発 生 期	18 13	ロ ム ダ ン フ ロ ア ブ ル コ テ ッ フ ロ ア ブ ル
12 ハスモンヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若 齢 幼 虫 期	1A 5 11A 11A 11A 11A 11A 11A 22B UN	ラ ン ネ ー ト 4 5 D F デ ィ ア ナ S C バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤 フ ロ ー バ ッ ク D F エ コ マ ス タ ー B T サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル プ レ オ フ ロ ア ブ ル
13 マメハモグリバエ	1. 周辺雑草を除草する。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●発生初期 1. アファーム乳剤で防除を実施した圃場では、ハスモンヨトウの発生が少ない。	播 種 時 発 生 初 期	4A 4A 5 6	ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤 ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 ア フ ェ ッ ト フ ロ ア ブ ル
14 ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	1. 被害株の間引きを行う。 2. 輪作を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2. クロールピクリンは、ケラにも登録がある。 3. キルパー、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤は、ネコブセンチュウのみに登録がある。	土 壌 消 毒 播 種 前	8B 8B 8B 8F 8F 8F 8A・8B 8A・8B 1A 1B	ク ロ ー ル ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤 キ ル パ ー ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤 (混) ソ イ リ ー ン (混) ダ ブ ル ス ト ッ パ ー バ イ デ ー ト L 粒 剤 ネ マ ト リ ン エ ー ス 粒 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する